



第44号

発行一



石川県剣道連盟

〒920-0811
金沢市小坂町西57-3 KSハイツ205号室
TEL 076-253-0310 FAX 076-253-0341
E-mail:ishikawa-kendo@iaa.itkeeper.ne.jp
URL www://ishikawa-kendo.com

会長に就任して



会長

南 信廣

一 はじめに

このたびの役員改選により、山下和廣前会長からバトンを受け継ぎました。微力ではありますが最善を尽くす所存です。どうぞよろしくお願いたします。

当剣道連盟の歴史は、昭和28年に設立され、平成25年に一般財団法人に移行し、今日に至っております。先ずもつてこれまで、永年にわたり歴史と伝統を積み上げてこられた多くの諸先輩方に心から敬意と感謝を申し上げたいと思います。

その上で、現在、当連盟および剣道界がかかえる次の諸課題についても、先を見据えてしっかりと取り組

んで参りたいと考えております。

二 体制整備について

武道の振興、連盟の活性化は、何と言つても、会員数、愛好家の増加だと考えます。会費会員数は着実に伸びてきていますが、少年剣士は目に見えて減少してきており、女子の活性化も大きな課題です。

ここは危機感を持って、普及、少年、女性、広報の各委員会が連携して、剣道の良さ、魅力や特性を積極的に発信し、一人でも多く仲間を増やしていきたいと考えています。また、居合道、杖道についても、今まで以上に会員数を増やす努力をして参ります。

三 競技力・質の向上について

もともと武道は格闘技であり、その振興を図る上において、競技力の向上は重要項目です。本県は、昨年の北信越国体では全3種目優勝し、本国体に全4種目出場したのは圧巻でした。引き続き、強化委員会を中心に、全国大会ベスト8を目標に

特集記事

- 3頁「居合道東日本地区講習会の報告」
居合道委員会 作田剛也
- 4、5頁「剣客往来インタビュー」
輪島市剣道連盟会長 小浦克彦
- 6頁「女性剣士講習会に参加して」
金沢市 椿 由美

取り組んで参ります。また、次世代の中心となるジュニア強化、中・高連携強化事業等も着実に進めていかなければなりません。一方で、審判講習会や高段者稽古会等を通じて、質の向上についてもこれまでの方向性で取り組んで参ります。

四 当面の課題について

本県で、今年はこの後、8月に北信越国体が開かれます。そして、来年以降二つの全国大会が予定されています。来年10月の「第55回全日本居合道大会」と、再来年8月の「第68回全国高等学校剣道大会」です。何れも会場は金沢市内の「いしかわ総合スポーツセンター」となっています。

当連盟の総力を上げて、準備に万全を期する必要があります。もちろん、地元開催として、選手を強化し、結果を残し成功させたいと念じています。経験豊富な諸先輩方のご指導もいただきながら着実に準備を進めて参ります。

五 コンプライアンスについて

コンプライアンスについては、スポーツ界にも厳しい目が向けられてきております。昨今、国内のスポーツ団体における不祥事が相次ぎ、大きく報道されたことはご承知のとおりです。暴力、パワハラ、薬物、金銭、会計経理等で、残念ながらこの剣道界でもありました。

違法行為はもちろんですが、剣道の精神を損ねるような不適切な行為についても発生させないように、組織の統治機能（ガバナンス）をより高め、お互い戒めあつていく必要があります。早急に「倫理規程」を策定するなどして、その対応を図って参ります。

六 おわりに

当連盟は基本的には、各郡市剣道連盟の集合体で構成されており、こうした課題を効果的に推進するため、今まで以上に各郡市との連携を図っていきたいと思います。また、時代の変化に的確に対応していくためには剣道組織内部だけではなく、組織外部の方々のご理解・協力をいただくことも大変重要だと考えます。剣道という日本の伝統文化の普及・発展こそが私たちに与えられた任務です。そのために新役員一丸となつて歩みを進めさせて参ります。皆様のご理解・ご支援をよろしくお願い申し上げます。

平成三十一年度
剣道中央講習会(東日本)
を受講して



かほく市
竹田 芳幸

一 はじめに

四月六日(土)・七日(日)の二日間、千葉県勝浦市内、日本武道館研修センターにおいて全日本剣道連盟主催の剣道中央講習会(東日本)が開催されました。

この講習会は、剣道の普及・発展のため、全剣連と各剣道連盟および全国組織剣道団体等との意思の疎通を図り、受講修了者による連絡、伝達講習の統一性を目的としており、本県から宇波和彦先生とともに受講してまいりました。

受講生は、東日本各連盟より四十七名、各全国団体等より十五名の合計六十二名(八段二十九名、七段三十三名)が参加しました。

二 講習会初日

中谷行道全剣連常任理事による、「講義」では、全剣連のガバナンス・

コンプライアンスの取組み、倫理に関するガイドライン制定などの説明を受けました。特に、役員・指導者による暴力・各種ハラスメントの根絶を強調されました。

次に剣道用具に関する試合審判規則等の改正(平成三十一年四月一日付)についての説明を受けました。これは竹刀及び剣道具の安全性や公平性に関しての改正であります。

竹刀では、安全性を著しく損なう加工や形状変更の禁止、ちくとうの太さの基準などの追加、剣道具では、面ぶとはんは肩関節を保護する長さがあるもの、小手は前腕の二分の一以上を保護するもの、剣道着の袖は肘関節を保護する長さを確保したものなどの規定が追加されました。規格以外の剣道具や剣道着は、試合終了後に審判員が注意を与えることとなります。これは全剣連主催の試合で適用されるものでありますが、日ごろからより安全で公平な剣道具の使用を心がけるように指導を受けました。

「日本剣道形」は剣道範士中田琇士先生より、形は何も変わらないう、日本剣道形解説書・剣道講習会資料を熟読し平素から形の修練に努めるように指導を受けました。

「審判法」は剣道範士大嶽將文先生より、旗の表示や宣告の発声の指導を受けた後に、大学生による試合を受講生が順番に審判を行い、有効打突などをその都度、確認し受講生の統一性を図りました。「救急法」は、勝浦市消防署員によるAEDの講習を受けました。「稽古会」は、講師も受講生の中に入り全員で回り稽古を二時間で初日が無事終了しました。

三 二日目

「アンチ・ドーピング」の講義では、体内に取り入れたものは自己の責任を負っており禁止物質を摂取しないように注意が必要であると指導がありました。

「指導法」は剣道範士加藤浩二先生より、剣道の理念、剣道修練の心構え、剣道指導者の心構え、の三本柱が基盤である。日本剣道形(刀)、木刀による剣道基本技稽古法(木刀)、竹刀稽古法(竹刀)のつながりを踏まえた指導法を実践することなど指導をいただきました。

四 結びに

先般、四月十四日(日)県立武道館において、伝達講習会を開催

したところ県内全域の指導者七十名の参加がありました。受講生の真剣で熱心な態度から充実した講習会になりました。今回の中央講習会・伝達講習会と貴重な経験を得ることができ県剣道連盟に感謝するとともに、当連盟発展のため微力ではありますが尽力していく所存であります。



特集

居合道東日本地区

講習会の報告

～全日本居合道大会に向けて～



居合道委員会

作田 剛也

一 はじめに

令和元年東日本居合道地区講習会が、六月八日(土)・九日(日)両日いしかわ総合スポーツセンターで開催されました。

二 居合道七・六段審査会

地区講習会に先駆けて前日七日(金)には、七・六段審査会が同所にて開催されました。本県からは七段一名が合格。これも偏に県剣連のバックアップによる強化の賜物と感謝申し上げます。

三 地区講習会

本講習会は「全日本剣道連盟居合」の正しい普及と振興のため、指導者としての技術の向上を図ることを目的に行われるもので、先ず一日目には、開講式において全日本

剣道連盟居合道委員長範士八段小倉昇先生より、加賀藩における鮎釣りの推奨と云う切り口から、武士として稽古に臨む心構えの重要性と、全日本剣道連盟居合のレベルアップを目指すようなご挨拶がありました。続いて、主管県剣連である本県南信廣会長より開催にあたり関係各位への御礼並びに本県と居合道の関係等も交えた歓迎の挨拶がありました。開会式終了後直ぐに講習会に移行し、最初に、全日本剣道連盟居合の講習として、範士八段草間純市講師解説、範士八段中村正人講師演武にて、全日本剣道連盟居合の二本目から十二本目まで、一本一本丁寧かつ詳細に解説と演武による講習が行われました。

会場設営の為に休憩をはさみ班別講習に移行。八段は小倉講師、七・六段は迫野講師・三谷講師・草間講師、五・四段は東講師・中村講師の六班に別れ実習が行われました。講習では、予め休憩時間を設けてありましたが、講師・受講生共に熱心に稽古に打ち込むあまり、時間を忘れ休憩時間になってもそのまま気付かずに稽古を継続、事務局より以降は体調管理のための休憩並びに水分補給のアナウンスを行いました。ロビーでは、接待班に

よるサーバーでのお茶の提供と、金沢文化スポーツコミッション協力の下、「加賀藩と武士道」加賀毛鍼を紹介するパネルが掲示され、受講生を喜ばせました。初日は、時間一杯まで講習が続きました。二日目も先ずは午前中引き続き班別講習が行われました。

四 古流の研究

全剣連居合の講習に続き、先ず「地元古流の紹介」があり、中村範士演武、相川教士解説にて本県に伝わる『無双直伝英信流』の業を抜粋、仮想敵の想定の違いによる所作の違い等について解説・演武を行い、同じ流派でも伝承により異なる所作を研究しました。

続いて「各流派別の講習」を経て、最後に参加各流派(神伝流・英信流・新陰流・田宮流・伯耆流・無外流・水鷗流・重信流・新刀流)の代表者による「各流派(毎の)業の解説・演武」が行われ、流派による違いを改めて認識し、古流の研鑽に努めました。

五 閉講式

先ず、講師を代表して小倉講師より、講習会関係各位への感謝・慰労と講習生の更なる研鑽を望む

ご挨拶の後、本県穴田龍太郎名誉会長より中部日本居合道大会の想いを交えた歓迎と励ましの挨拶で講習会を締めくくりました。

審査会・講習会三日間にわたりご臨席、終始見守っていただきました南会長はじめ県剣連役員の方、忙しい中激励に訪れていただきました穴田名誉会長に深く感謝申し上げます。

六 おわりに

東日本地区講習会の終了は、来年に迫った「全日本居合道大会」開催に向けたスタートでもありません。選手候補の強化は勿論、居合道各係員は、今講習会を十分に活かし、各係の熟知度を十分に上げ全日本大会成功に向けて、一同一致団結して臨む所存ではあります。準備運営等に更なる人員が必要となります。

県内の居合道人口からは是非とも大会の趣旨等をご理解いただき、連盟会員各位のお力添えを切にお願いするものです。何卒よろしくお願いたします。

剣客往來
インタビュー



輪島市
剣道連盟会長
小浦 克彦氏

指導者一筋四十年、剣道のすばらしさを地域の子どもたちに伝え続け、一月に第29回いしかわ中日体育賞の指導者賞(いぬわし賞)を受賞されました輪島少年剣道教室代表の氏にインタビューしました。

問 剣道をはじめられたきっかけについてお聞かせください。

父が剣道を指導していたことが大きな要因ですが、そもそも体が弱かったこともあり。クラスで最初に風邪をひくような子どもで、親も心配したことだろうと思えます。小学校二年から連れて行かれました。当時、輪島警察署の裏に輪島町民の寄付で戦前に建てた養正館(柔剣道場)がありました。昭和三十年代でテレビが各家庭に普及しておらず、夜子どもたちが遊べる唯一の場所であり、付近の子どもたちが遊びに来ていて楽しかったので続けました。

問 少年時代における思い出をお聞かせください。

高校三年の県総体個人戦準決勝、開始早々に一本先取、このまま時間切れになるとインターハイに行けると頭をよぎり、逃げの剣道となった結果敗退する。一年の時も準決勝敗退だったので余計に勝敗にこだわりすぎたと、後々教訓になりました。その後北信越大会に出場し三位となる。新潟商業の大将を破つての成績だったのでうれしかったが、まさか自分がここまでこれると思つたこともなく、無欲の結果だつたと思えます。これまで数多く試合をしてきましたが、期待されたり、勝とうと意気込んで臨んだ試合、良い結果を残していません。一戦一戦夢中に戦つた試合程、良い結果が残せたような気がします。

面白いエピソードとして、大学二年の時、県民体育大会に出場し団体優勝となりましたが、この年から北陸三県以外の大学生の出場は認められておらず、取り消しとなりました。しかし、趣旨が徹底されておらず、他団体にもかなり参加者がいたことから、ベスト八位と同じポイントを振り分けることで決着、二年連続優勝は幻となりました。

問 少年剣道教室指導者へのいきさつについてお聞かせください。

大学卒業後、紳士服メーカーに勤めていましたが、父から店舗を改築し販路を広げたいと言われ、四年の勤務で帰郷。石川県学校生活協同組合指定店として、輪島市や鳳至郡で学校巡回をしながら、父の指導していた養正館の稽古に参加、子どもたちにも指導していました。そのような中、私が32歳の時、父は58歳で病に伏し手術の甲斐なく他界しました。当時、父以外に責任をもつて指導する方がおらず、輪島の連盟了解のもと指導することとなりました。

問 40年の指導での苦労話・思い話などお聞かせください。

父が亡くなってから教室を引き継いだ時、小学六年生ばかりで山岸豊和氏たちがいましたが、中学に進学後小学生がいなくなり、ほぼ一ヶ月ひとりで稽古していました。これは父からどんなことになるうとも、教室を開いていけば必ず入会者がいると聞かされていたからです。自分の代になったら誰も来ないのではないかと不安でしたが、その

うち自衛官や警察官のお子さんたちが入会し、五名くらいを指導していました。それからは口コミで入会する子どもも次第に増え、小学生・中学生・高校生と指導することとなりました。

ある時、当市の西二又小学校で全校生徒を指導することとなり、月一回十年余りにわたり通いました。このとき、あまり手をかけなくても上達する子、なかなか努力が伴わない子を知りました。このような子どもたちに、いかにしたら習得してもらえるか、楽しく続けられるか考えさせられたことが、指導の勉強になりました。昨今は少子化が叫ばれ、当市でも人口減少が進んでいます。剣道をする子が減ったり増えたりすることは当たり前のことです。一喜一憂するのではなく、当初の気持ちをお忘れずに指導に当たりたいと思つています。

問 今までの人生の中で、剣道をやつてきて良かったと思うことや剣道で支えられたことなどをお聞かせください。

帰郷して六年後に父が亡くなり、次第に父のお客様も減り、そ

の上私を知っている地元の方も少なく、負債がある中どうして商売を維持していくか、不安でいっぱいでした。しかしながら小・中学生に剣道を指導していることが知られるにつれ、学生協の先生方に信用され売り上げにつながっていったことは大きな力となりました。子どもたちを指導している手前、子どもたちに恥ずかしくない生き方をしなければならぬと、心に張りを持っていられたことが、周りから信頼をいただいたことではないかと思えます。私の息子も伴侶は剣道の縁で知り合いました。剣道から身を引くことは人生において罰が当たると思っています。長男が中学県体個人で二位となり全国大会に連れて行ってくれたことが楽しい思い出です。今、孫(小二)も剣道を始めました。この子と互角で稽古ができるまで健康で頑張りたいと思います。

問 現在の剣道に対する思い、ご自身の稽古についてお聞かせください。

今年三月、県立武道館で高段者稽古会に参加しました。その時、山下和廣先生より構えの基本がで



きていないこと、坂下弘先生からは背筋が伸びていない、足が外に向いている、声が小さいとご指導をいただきました。帰ってから稽古の動画を見たとき、腰痛に負けている姿を自覚しました。

普段から足・腰・背筋に注意しながら歩くことや稽古の時は相手の中心を攻め、まっすぐ打突することを心掛けていますが、自然とできるようになるのは難しいと感じています。しかし、互角稽古の終わっ

た後、打突を強くするため大きな面打ち、小手・面等の打ち込み稽古を息が切れるまで続けています。

問 剣道と仕事の両立を目指している若い世代にアドバイスをお願いします。

かつて剣道をしていたが勤めの関係でなかなかできなかった同級生から、定年後本格的に再開したとの便りが大学・高校を問わず数人から届くようになりました。そのうちの一人が定年後六段に合格し、先日名古屋で七段に合格したと35年ぶりに誇らしげに連絡してきました。幾つになっても剣道は再開でき、そのことが人生の糧となり生きがいになっていると思います。自分もこの年齢になって心から剣道が続けて良かったと思っています。

問 今後のご自身の生活と剣道の関わりや抱負などお聞かせください。

これまで商売に支障があっても、剣道の指導や稽古ができる家庭環境をつくってくれた亡き父や、それを許して応援してくれた妻をはじめ家族に感謝しています。子ども

たちには剣道の礼法を通じて、これまで培われてきた日本人の心構え、特に他人に対する惻隱の情、また剣道で学べる精神的・身体的要素を一つでも身に付けてもらえるよう指導し、ともに学んで行きたいと思っています。



女性剣士講習会に参加して



金沢市
椿 由美

■第5回女子指導法講習会

- ① 日本剣道形 (中田琇士先生)
- ② 木刀による剣道基本技稽古法 (遠藤勝雄先生)
- ③ 青少年の指導 (加藤浩二先生)
- ④ 竹刀稽古法 (小坂達明先生)
- ⑤ 指導稽古・合同稽古

女性剣道人口増加に伴い、有段者も増え学校・地域にも女性指導者が増加する中で剣道の特性や正しい知識を身に付けることはとても肝要だと思いました。中でも遠藤先生の「指導者は正しい知識と技術をもって、それを示範できなくてはいけない」という言葉は私の胸に深く刻まれました。二つ二つの細かい指導や言葉、更に示範されている先生方の姿を学んで帰らなくては・・・と真摯な気持ちをもって受講してまいりました。

■第24回女子審判講習会

試合・審判・係員をローテーションしながら数多く実践練習する中、多くの時間をかけたのは、有効打突の見極めと位置取りでした。有効打突の見極めは、素早い位置取りももちろんですが、講師の先生方からの一言「自身の稽古」これに尽きました。良い審判をする為に一本でも多く稽古をし、その中で学びのある稽古になるよう心掛けようと思えました。

位置取りに関しては自分の雑な位置取りが他の審判を惑わせてやりづらくさせてはいかかと不安でしたが、講師の先生方の御指導により三人の連携がスムーズな動きとなり問題なくなりました。

有効打突の有無に関しては理由を問われ、適切に答えなくてはなりませんでしたが、以前、角正武先生の講習会に参加した際に、審判中は常に「今のは打突の強度が無いから不十分」「今のは刃筋が正しくないから不十分」「今のは強度は足りないかもしれないが、良い機会を捉えた玄妙な技で一本」と打突と要件要素を反芻しながらするとよいでしょう。と教わりました。それを日頃から意識していたため、講習会で聞かれた際適切な言葉を

もって答える事ができ、このことは自信につながりました。

今回、この二つの女性講習会に参加させていただき、新しい学びもあれば、平日頃の再確認もあり、とても有意義な時間を過ごせたと思っております。

また遠藤先生は、指導をする際の態度についても「あつち行けこつち行け」といった指揮棒のように竹刀で合図してしまったり、床にある竹刀をまたいだり・・・そういう事もいけません」と教えられました。私は日頃そのような事には注意を払っていましたが、気付かないうちに粗相をしていた事はあったのではないかと思います。

そのような事を日々省みて改めて行くことも剣道修行の中において大切である事も教えていただきました。八年前、石川県で六・七段審査が行われ、その際裏方として審査員の先生方の休憩時のお世話をした事がありました。その控室でお弁当を食べた後の空をとんでも丁寧に整えられていた先生がおいでになり、作り手への感謝、片付ける我々へのお礼のようなものがふと伝わりました。「こういう事が大切なんだな」と感じたことを思い出しました。

剣道は日本の伝統文化と位置付けられています。伝統には有形無形があり、剣道において有形は剣道形や竹刀操作等、無形は精神論であると思われれます。この講習会を通じて先生方から沢山の有形的な事を学び、無形的な事に気付けられました。

今後も更に剣道の正しい知識を身に付け、判断・行為を以て微力ながら日本の伝統文化である剣道を子供達にも伝えると共に、自らも襟を正し、そして謙虚に剣道に向き合っていきたいと思えます。



剣道七段に合格して



能美市 宮口昌尚

今春京都の審査会で、ようやく七段に合格することができました。これも山下和廣先生をはじめ、県剣連の先生方のお力添えのおかげと感謝しております。

これまで怪我や病で剣道ができなくなることが度々あり、その都度剣道ができる身体を夢見ていたこともありました。

そのような中、辰口で山下先生指導の基本中心の稽古を週二日、県剣連の土曜日の稽古もできるだけ参加するようにしました。稽古を続ける中、私の心の中には、持田盛一十段の遺訓がありました。それをもう一度紹介したいと思います。

剣道は、五十歳までは基礎を二生懸命修練して自分のものになくしてはならない。普通、基礎というところ初心者のうちに修得してしまつたと思つているが、これは大変な間違いであつて、そのため基礎を頭の中にしまい込んだままの人が非常に多く、私は剣道の基礎を体で覚え

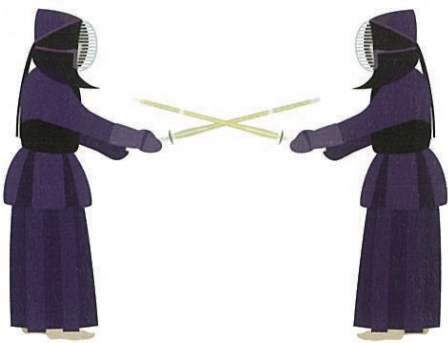
るのに五十年かかった。

私の剣道は、五十を過ぎてから本当の修業に入った。心で剣道をしよつとしたからである。

六十になると足腰が弱くなる。この弱さを補うのは心であり、心を働かせて弱点を強くするよう努めた。

七十になると体全体が弱くなる。今度は心を動かさない修業をした。心が動かなくなれば、相手の心がこちらの鏡に映ってくる。心を動かさないよう努めた。

八十になると心は動かなくなつた。だが時々雑念が入る。心の中に雑念を入れないように修業している。



昇段を目指して 感じたこと



川北町 鵜城紳太郎

五月に京都で行われました中央審査会において剣道六段に合格させていただきました。私は小学生の頃、父の影響を受け剣道を習い始めました。地元の剣道教室に通い、沢山の先生方と剣道の道を志す同じ仲間にも恵まれ小・中・高、大学と剣道が続けることができました。現在は白山市立北星中学校に勤め、教員という立場で子どもたちの剣道の指導に携わつています。指導者という立場上、子どもたちも試合で勝たせるための指導もしながら、示範ができるよう自分自身が正しい剣道を身に付けていくことが必要だと常々思つています。また、一剣道家として試合で勝つことと、昇段ということも常に意識しながら自己研鑽を怠らないように心がけています。今回審査会に向けて特段の取組みはしていません。しかし、県立武道館での稽古会や講習会等なるべく参加し、

県内で行われる大会にも出場するようにはしてきました。審査会までの稽古は常に立ち合いをイメージしながら取り組みました。その中で「攻め」の大切さ、難しさに気が付きました。指導する場面では「攻めなさい」「入りなさい」と簡単に言つてしまひますが、攻めることで自分が出遅れたり、体勢が崩れたりして打たれてしまうこともあります。かといつて攻めがなければ、相手に攻められて打たれてしまう。とても難しい技術だと改めて感じるようになりました。稽古の中では、攻め込む機会や足さばき、姿勢など細かいことに注意を払い、試行錯誤しながら稽古しました。そして、今までにない新しい「攻め」の感覚が身に付いたように感じています。また、試合と審査の剣道は違つたように言われます。確かに違う部分は沢山あると思いますが、今回の昇段に向けた稽古を通して、両者に通じる部分は沢山あるのではないかと感じるようになりました。最後になりますが、ご指導していただきました先生方や、稽古の相手をしてくれた北星中学校剣道部員の皆さんに感謝申し上げます。

【全国大会等記録】(1~6月)

第60回大阪居合道大会

1月13日、エディオンアリーナ大阪
七段の部
優秀演武賞 作田剛也

第28回北信越高校剣道新人大会

2月2・3日、庄川体育センター

男子団体

▽準々決勝
羽咋工業 1-③ 敦賀
金沢 ②-1 丸岡

▽準決勝

金沢 0-② 龍谷富山

女子団体

▽準々決勝

星稜 ③-0 富山北部
金沢 ②-1 工大福井

▽準決勝

星稜 0-② 高岡工芸
金沢 ①-0 五泉

▽決勝

金沢 ②-0 高岡工芸

第28回全国高校選抜剣道大会

3月27・28日、春日井市総合体育館

男子

▽一回戦
金沢市工 ②-1 盛岡南
▽二回戦
金沢市工 0-① 日本航空

女子

▽一回戦
金沢市工 0-① 日本航空
▽二回戦
金沢市工 0-① 甲府商業

第41回全国スポーツ少年団剣道交流大会

3月27~29日、維新百年記念公園SSC

小学生団体 森本 予選リーグ敗退

中学生個人

男子 松本恭典 予選敗退

女子 横山 雅 予選敗退

第67回都道府県対抗剣道優勝大会

4月29日、エディオンアリーナ大阪

二回戦

石川 0-⑤ 鹿児島

令和元年度県高校総体剣道競技

5月30日~6月1日、羽咋体育館

男子団体

▽決勝

金沢市工 ②-1 羽咋工業

女子団体

▽決勝

金沢 ③-0 羽咋

男子個人

▽決勝
山田(金沢) ①- 北井(金市工)

女子個人

▽決勝

横山(羽咋) ①- 中村(金沢)

第57回北信越高校剣道大会

6月15・16日、長野市真鳥Sアリーナ

男子団体

▽準々決勝

新潟商業 ④-1 金沢
敦賀 ①-0 金沢市工

女子団体

▽準々決勝

金沢 ③-0 新潟商業

五泉 ①-0 羽咋

▽準決勝

金沢 ③-0 富山北部

▽決勝

金沢 ①-0 五泉

男子個人

▽第三位 松本龍樹(羽咋)

中央審査会合格者

剣道

▽七段 鳥越隆志 南川浩明

宮口昌尚 北江克伸

▽六段 原田竜郎 鵜城紳太郎

笠森太郎 南智明

木沢俊一 中村一仁

松本巨市 山元大輔

山田潤 外雄二

橋本豊司

松本悟

▽七段 中村光成

▽七段 中村光成

(二財)石川県剣道連盟

令和元・二年度役員 (印は新任)

名誉会長 ○穴田龍太郎

相談役 ○山下和廣

会長 ○南信廣

副会長 末平佑二 ○北野優

田上雅治 ○近藤繁彦

専務理事 ○宇波和彦

副専務理事 杉本卓也 ○岩脇司

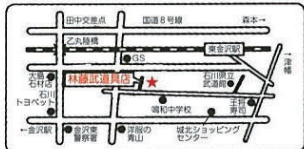
事務局長 倉久廣

林藤武道具店

〒920-0803 石川県金沢市神宮寺町1番地83
Tel.076-252-2220 Fax.076-252-2240
HP <http://www.rindoubudougu.jp/>
E-mail:budou@chive.ocn.ne.jp

●定休日/月曜日

【営業品目】
剣道・柔道・空手・なぎなた・武道具全般
(刺繍・ゼッケン・ネームプリントも承ります)



武道具の
ハシメト

金沢市上荒屋7丁目67 TEL 249-8233
〒921-8065 FAX 249-9139